



平和研講演会シリーズ 2005
2005 IIPS Lecture Series
“安定した国際社会の構築と日本の役割”

駐日欧州委員会代表部大使
ベルンハルド・ツェプター閣下
「「昨今のEU動向」(Recent Developments in the EU)」
2005年7月12日 於:キャピトル東急

世界平和研究所は、日本財団の協賛を受け、本年7月12日、キャピトル東急ホテルにて駐日欧州委員会代表部ベルンハルド・ツェプター大使の「昨今のEU動向」(Recent Developments in the EU)に関する講演を開催した。

講演の冒頭、ツェプター大使は、EU憲法問題について触れ、EUはすでに確固たる法的基盤を持っており、EU憲法制定の制度的な意味での重要性は一般に思われているのとは異なっている。すなわち、一部の国がEU憲法を批准しなかったということでEUが動揺することはないし、その将来についても順調に進展するようなメカニズムがすでに構築されているから、まったく懸念するようなことは起こり得ないが、EU憲法は、EUの統合のシンボリックな意味合いを有し、欧州における平和と安定、繁栄実現のシンボルであり、かつ欧州のアイデンティティにも関係する問題であると指摘した。



続いてツェプター大使は、EUの経済、財政、拡大について触れ、まず、EUには資金がないなどという誤った情報があるが、EUはその活動に必要な予算を有しており、そうした事実は存在しないこと、また、加盟国の拡大については、冷戦以降のような拡大のペースがスローダウンすることは避けられないこと、一方、拡大が続くことは確実であるから焦るのは危険であることを指

摘、合わせて日本EU関係はITERの決着にみるように良好な協力関係を維持しており、今後もますます重要となるとの見解を示し、最後に会場からの質疑応答を行い、講演を締めくくった。